

【全体総括】 生物多様性ここのえ戦略見直し(5年見直し)

全体的な課題

- ①戦略を策定し、初めての見直しであり、見直しの方法や時期、5年以降への反映方法等の検討が必要。また、20年（中期）目標見直しの方法も同様。
（戦略56頁、58頁、85頁、106頁）
- ②コロナ禍により、目標達成に掲げている愛知目標（～2020）の見直し時期が遅れている
- ③各種団体や役場関係課との連携
- ④数値を拾うための仕組みが構築されておらず、他団体の取り組みの把握が困難

九重町自然環境保全推進委員会の意見

指標については、未達成が多く、新型コロナウイルス感染症感染拡大による影響や評価するための数値を拾う仕組みが構築されていないことも原因となっていると考えます。今後は各団体と連携し、町内全体の取り組みの状況を把握することと、役場全体で生物多様性に関する取り組みを推進していくことが重要です。

庁舎内自然環境推進員(自然と共生するまちづくり連絡会議)の意見

九重町自然環境保全推進委員会と同様

総括及び今後の方向性

指標については、未達成のものが多く、中には集計をするための仕組みが構築されておらず、評価が難しいものが見受けられました。今後は、各団体や各課にアンケートを実施するなどして、正確な数値の把握に努めます。また、生物多様性ここのえ戦略を推進するにあたっては、各課との連携は必須であると考えます。2021年度までの5年間に関しては、担当課のみで取り組むことが多く、他の課において、生物多様性に関する取り組みの周知が不十分だったことが反省点として挙げられます。2022年度からは、まず、庁内全体の生物多様性への意識を高めるための取り組みをしていきます。